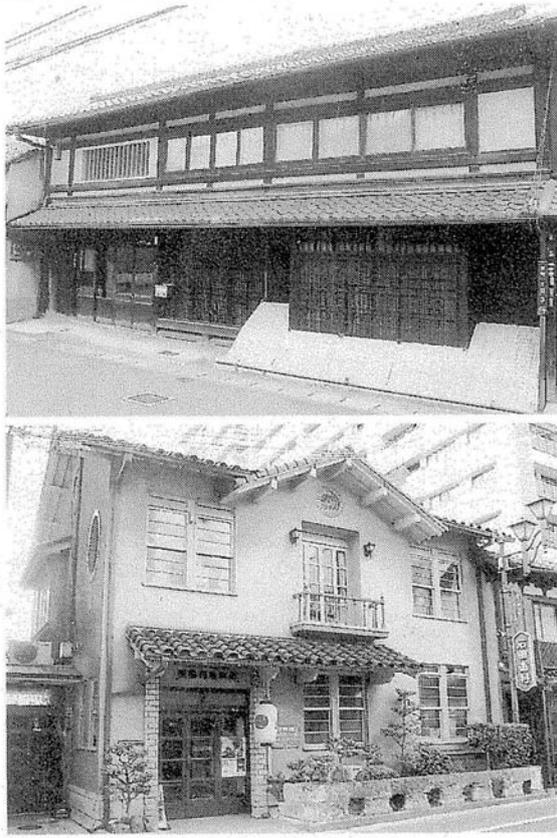


大津市の旧市街地に残る江戸時代から昭和時代の町家など計12件が、国の登録有形文化財に登録される見通しになった。3月に国の文化審議会が文部科学大臣に答申した。

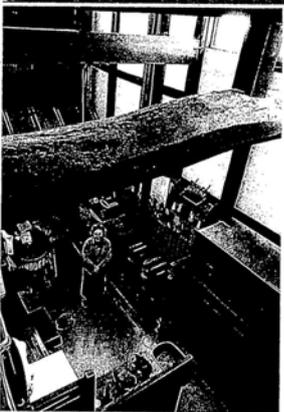
大津の町家 国の登録文化財に 北川家住宅など12件

登録されるのは、北川家住宅主屋と土蔵▽石田家住宅主屋と洋館(石田歯科医院)▽桐畑家住宅主屋とその離れ、土蔵▽佐野家住宅主屋と土蔵、▽初田家住宅主屋と土蔵、

塀。建物は、いずれも昔ながらの街並みが残る旧東海道の周辺にある。江戸時代末期から戦前までの町家の特徴をいかにしながら、2階から秋の大津祭の曳山巡行が楽しめるよう手が加えられていることなど、大津の歴史や文化と深く結びついたたたずまいが評価された。



①北川家住宅主屋 ②大津市京町1丁目 ③石田家住宅洋館(石田歯科医院) ④大津市中央1丁目、いずれも県教委提供



①一部は江戸期築の北川美登さん、昌子さん夫妻の住宅=大津市京町1丁目
②桐畑完次さん方の土間。昔ながらのかまどが残る=大津市中央1丁目

まちがら

高さ8mはあるか。土間の吹き抜けに目を奪われた。大津市京町1丁目の北川家。大人が抱えるほどの太く黒いはりりが、江戸から平成まで建物を支え続けてきた時の流れを感じさせる。かつて東海道の宿場町として栄えた大津市の旧市街地。「大津百町」と呼ばれたこの地域

伝統町家で街活性化

で、北川家を含む12の建物が国の登録有形文化財に登録されることになった。大津市の狙いは町家の保全、そして市街地の活性化だ。

戦災を免れた大津百町には伝統的な和風式の町家が数多く残った。2004年度の市の調査で166軒。ところが、開発や管理の難しさなどで急速に

後世に伝える歴史と文化

姿を消し、昨年度までに116軒減った。大津市は、空き店舗が目立つなど衰退する中市街地に生きわいを取り戻すため、町家に暮らす人を呼び戻すことを目指した。これまで科学1軒だけだったこの地域の登録有形文化財を12軒に増やし、「町家地域」の登録を完了し、考えられた。北川家では住宅母屋と土蔵が登録される。旧東海道を面した土間の長い開口は約12m。江戸末期は「十一層」の屋号で表商。大正時代には保険業を営んでいたという。目をひく吹き抜けには大きなかまどが残るが、今はガスコンロで炊事をする。「でも今は寒くて服を着込んで食事の支度を

しています」この空生まれ育った北川さん(79)は笑う。京阪浜大津駅から数分歩くと、軒を支える出桁が特徴の桐畑完次さん(74)宅。かつて米の集積地だった浜大津で「畑屋」という采問屋だったそうだが、琵琶湖が近いので風呂の床板を張り替えるなどの補修に十数年かかった。費用もかさみ、桐畑さんは「維持は大変」と話す。

隣の石田歯科医院は1907年築の洋風の建物。院内は液晶モニター1つきの診療台が並び、3代目院長の田益世さん(62)は「3代続く患者さんごまから、建物は壊さない」と話す。

北川さんは、家を取り壊してマンションにはいかと、何度も建設業者から誘われた。そのたびに断った理由は「大津祭だ。曳山巡行は母屋と離れの間を駆け抜ける。一等地。つじじや祭りの際になりませんと、歴史と文化を後世に伝えたい」と話す。

大津市は今年度、登録有形文化財を約10軒増やし、伝統の町家を新たな町づくりに取り組む(堀川勝也)



空き町家再生街に元気

街中の伝統的な木造家屋「町家」の空き物件をデータベース化し、活用を促す地域の取り組みが関西で広がってきた。空き物件の賃貸借や売買を仲介するネットワークをつくり、旧市街地の空き家を減らし、努めたり、町家らしく再改装して街道の景観を整備したりする試みだ。自治体や街づくり団体が、市街地ににぎわいを取り戻そうと動いている。

物件情報公開 賃貸など仲介

近畿各地で空洞化対策

近江商人発祥地の一つや近江八幡商工会議所として知られる滋賀県近江八幡市で今月中旬、町家再生ネットワークが発表された。空き町家の物件情報、インターネットのホームページで公開。賃貸借や売買を仲介する。市



改装前

大津市の旧東海道に面した事務所（写真上）と補助して工事を終えた事務所（写真下）



改装後

所在地	内容
【大阪府】	
堺市	江戸時代初期に建てられた最古級の町家「山口家住宅」を市が引き取り内部を公開
富田林市	江戸～昭和の町家500軒が並ぶ寺内町に4月、幕末～明治初期の町家を生かした休憩施設開設。土間を抜けると展望広場に
【京都府】	
南丹市	旧山陰街道本陣跡の旧酒屋で09年2月から3カ月を行う「そのべ本陣」開催
【滋賀県】	
大津市	中心商店街にある明治期の旧店舗兼住宅を「まちづくり大津百町館」としてNPOが管理。内部で町の歴史のパネル展示も
彦根市	仏壇店が集まる地区に4月末、築100年以上の町家を活用した「七曲り三軒茶屋」開業。講習会・伝統工芸教室なども随時開催。将来は休憩施設も
長浜市	「黒壁スクエア」周辺に宿泊体験型の町家ホテルを整備。新築・改修各1棟。6月オープン予定
【兵庫県】	
篠山市	NPO法人「たんばくぐみ」がボランティアによる古民家再生に取り組み。国交省がまちづくり功労者に選出
丹波市	JR柏原駅近くでまちづくり会社が2階建て古民家を改修。1階に4月、鹿肉料理店「無鹿」と地元産野菜の販売店オープン
【奈良県】	
橿原市	町家を改装した宿泊施設「今井庵・楽」。町家への居住希望者らに宿泊体験など利用してもらう

自治体、景観整備を支援

外壁の色を規制 ▲姫路市 ▼大津市 改修費用を補助

街の歴史を象徴する町家は観光振興や景観保全のうえで有力なコンテンツになり得る。自治体は補助金による支援など制度を整え、再生への取り組みを急いでいる。

世界遺産である姫路城の大手守保存修理事業が、始まった姫路市は、歴史的な建物が多く残る野里街道周辺を歴史的町並み景観形成地区に指定。2011年度以降、街並みに調和した舗装や和風街路灯の設置、まちづくりの拠点施設を整備して城下町らしさを取り戻す。商店や住宅の修繕工事に助成金を交付、景観ルールを定める建物の外壁の色などを規制、誘導する。大津市も旧東海道（京町通り）の商店や事務所を町家風外観にする改修

費用の補助を実施。スレートの外壁を焦げ茶色に塗り替えたり、漆仕上げに直したり、アルミやスチール製手すりを木製格子に取り換えるなど、09年度までに3棟の修繕工事を支援。10年度も数件を補助する見通しだ。京町通りは大津祭で曳山（ひきやま）が巡行する。同市は3月、同地区を中心とした中心街で江戸～昭和初期に建てられた12件をまとめて有形登録文化財に申請した。都府県再生課は「市民の誇りでもある曳山が似合う街」として、住民を支援している。

これらのニーズを円滑に入居に結びつけようと近江八幡市は賃貸・買取希望者向けに見学会を催すなどして、町家所有者向けに相談会を開くなど取りの活性化に努めている。奈良県では橿原市の例をもとに昨年、県内に残る歴史的街並みの保全に向け、町家バンクのネットワーク（へり）に乗り出した。

ネットワークが運営する。まず売却や賃貸を検討する町家3軒の建物の状態や賃貸・売却条件などの情報を掲載した。兵庫県姫路市も「ひめじ古民家・町家情報バンク」を始めた。市のホームページで物件の周辺情報を写真入りで紹介。町家や古民家の賃貸や売買を考える所有者は不動産会社を仲介役で指定すれば無料登録できる。社会

実験として2011年3月まで実施する。2割弱常住なし町家バンクは宿場町の大阪府枚方市や奈良県橿原市でも公開中。橿原市今井町の特定非営利活動法人（NPO法人）「今井まちなみ再生ネットワーク」が

「これは06年から空き町家の再生を後押ししてきた。町家を改装した宿泊施設「今井庵・楽」はその一つだ。各地の自治体や住民団体が町家再生に乗り出した背景には高齢化に伴い空き家が急速に増えている事情がある。近江八幡

市では07年度に旧市街地の町家437軒のうち2割弱で常住する人がいなかった。空き家対策を進めようにも法事も正月など一時的に持ち主が帰ってきて通年での賃貸が難しい、住人が階下の空き店舗賃貸に難渋を示すなどを集め、中心市街地再

銀行の建物改装は集客力ある観光施設になる。滋賀県長浜市では明治時代に建てられた銀行の建物を改装した体験型観光施設「黒壁スクエア」が年間200万人近くを集め、中心市街地再

生の起爆剤になった。同地区では現在、町家ホテル（新築、改修各1棟）と飲食・物販店舗などの整備を進めている。「定年後は町家に移住したい」という都市部の住民や、町家を飲食・観光事業に使用したい企業のニーズも着実に増えている。京都市中京区の老朽化した町家屋を改装した旅館「京宿屋」を営む不動産会社の八清（京都市西村孝平社長）は8月、京都市東山区で京町家を改修した外国人向けの宿泊施設を開業の予定。外国人の宿泊需要を狙う。